グループ紹介 ③

プレイサークル 外遊びの会

これからは冬時間で夜が長くなり、昼間も太陽なんていつ出てくるのと思う日々が続く、秋の季節ですね。でも、子どもたちは、天候にかかわらず元気いっぱい。寒くても雨さえ降らなければ、外で遊びたいのはやまやま。そういう子どもたちをただ公園で遊ばせるだけではもったいない。ブリュッセルにはすぐ近くに森があり、自然の中に溶け込めるこの環境を有意義に利用しようと活動するグループ、外遊びの会に参加して、様子をのぞいてみました。

毎週水曜日の午後2時からソワーニュの森、カンブルの森などに集合して、森を探検しながら散歩していきます。取材日は、最高気温17°Cとの天気予報だったので、るんるん気分で出発しました。しかし、森の中は日陰が多く、肌寒さを感じながらの散歩となりました。ところが、参加した子どもたちは嬉々として、すごいスピードで歩いていきます。やっぱり子どもは元気いっぱい。厚着をしていた子どもは、暑くなってきたと上着を脱いで走っていきます。散歩道は、途中から起伏のある細い道になりましたが、乳児を連れたお母さんたちもこの道を選んで、自然豊かな小道に入って行きました。

突然、子どもたちが坂を登って探検開始です。取材班は、危ない！と叫びそうになりましたが、どの子どもも慣れたもの。スイスイと坂を駆け上がって、「ママもおいでよ、こっちにも道があるよ！」とエネルギー一杯です。そういう怖いもの知らずのお兄ちゃん、お姉ちゃんたちを見ながら、小さい子どもたちも時々四つんばいになりながら、坂を登って行きました。もちろん、靴もズボンも土や枯れ葉で汚れてきます。でも、お母さんも子どもたちもそんなことはお構いなし。自然の中にいるのですから、当然ですよね。異年齢の子どもたちは、自然の起伏や落ちている枝や枯れ木で遊びながらどんどん進んで行きます。お母さんたちは、こんな子どもたちをある程度の距離を持って見守りながら、活動に参加する子どもたちが成長していく様子を見とどけています。「さあ、今日は遊具のところでおやつを食べるから、もうちょっと先へ進もうか」と、まだ斜面を走り回ったり横たわっている木で遊んでいる子どもたちを先へ先へと促します。

遊具が見えてきたら、飛びつきそうな子どもたちですが、まずは「おやつを食べましょう！」の一言に、みんなでシートを敷いて場所作り。お母さんが作ってくれたおやつや店で見つけた新しいお菓子をたらふく食べて、どの子どもたちも小一時間歩いた疲れなどを吹っ飛ばしました。おやつの後は、遊具で思いっきり遊びます。でも、よく見てみると、遊具で遊ばず、さらに探検と称して小川に入って遊んだり、丘を登っていったりと自然と戯れている子どもたちもいました。遊具のある公園は、家の近くにもある、でも、自然の中での探検は、ここでしかできないと子どもたちも分かっています。家の近所にはないこの環境での遊びは、子どもにとって宝物です。あっという間に16時を過ぎて、待っているお母さんたちは、肌寒さを感じるようになってきました。「さあ、本を読みますよー！」とあるお母さんの掛け声で、読書の時間が始まります。今日はお月見の日。気がついたお母さんたちがお月見にちなんだ本を持ってきてくれました。森での読み聞かせ、なかなか良いアイディアですね。どの子どもたちも楽しそうにお話を聞いていました。

お話のあとは帰り支度です。まだまだ遊びたい子どもたちに声かけをして、森の出口へと歩き始めます。疲れるだろうとベビーカーを持参したお母さんもいましたが、まだまだ元気一杯の子どもたち、森の出口までちゃんと歩いてたどり着きました。「あー楽しかったぁ。」、「また遊ぼうねー」と子どもたちとお母さんたちは、笑顔で別れました。

皆さんも日本では経験しにくい森での外遊びの会に参加してみませんか？下記ウェブサイトよりお申し込みください。これからの活動時は、親は数時間外にいても寒くならない暖かな服装で、子どもたちは暑くなったら脱げるよう重ね着をして参加しましょう。下記ウェブサイトに持ち物や服装に関するアドバイスが掲載されているのでご参照ください。

http://sotoasobinokai.blogspot.be